

Feature

2015年4月の「国際バカロレア ディプロマ・プログラム(IBDP)」始動に向けて、本校ではさまざまな準備が進められています。今回はIBDPの学習スタイルを先取りした「Pre IBDP」に参加中の高校1年生に話をうかがいました。

Pre IBDPがスタート!



▲「いろいろな視点に立って考える能力を磨きたい」と澤村諒太郎君(国際数理科1年)



▲「グローバルな思考を身につけ、将来の夢に一步でも近づきたい」と横山明子さん(国際数理科1年)



▲「IBDPに参加できるのはとても幸運なこと、幅広い知識を身につけたい」と河尻翔君(普通科中高一貫コース1年)



▲「国際社会で求められるコミュニケーション能力を身につけたい」と黒木良華さん(普通科中高一貫コース1年)

意欲あふれる28名が、自ら探究する学習スタイルを先取り。

TIMES: まずは生徒の皆さんそれぞれに、どうしてPre IBDPに参加しようと思ったのか、その理由を聞かせてください。

横山明子さん: これまで以上に英語力を高め、将来、グローバル社会で活躍するための能力を磨きたいと考えたからです。

澤村諒太郎君: 僕はIBDPの資格を利用して海外の大学に進学するために名古屋国際高校に入学しました。そのための準備として、ぜひPre IBDPに参加したいと思いました。

河尻翔君: 僕の将来の目標も海外の大学に進学することなので、Pre IBDPについて聞いた瞬間から「絶対に参加しよう!」と心に決めていました。

黒木良華さん: IBDPを導入している学校は多くないですし、今後の自分のためにも貴重な経験になると感じたので、思い切って挑戦することにしました。

TIMES: Pre IBDPではどのような授業が行われているのですか?

ティム・デイルー先生: 国語と英語の2教科で、ライティングやスピーキングといった表現力を重視する授業を展開して、自ら探究する学びの姿勢の基礎を築いています。

アダム・クラウス先生: グループディスカッションを通じて意見を出しあい、最終的に自分の考えを導き出すというIBDPの学習スタイルを先取りするなど、生徒たちは非常に高度な内容に取り組んでいます。

TIMES: 実際にPre IBDPの授業に参加して、どのような印象を受けましたか?

澤村君: 課題も多くて「想像していた以上に大変」というのが率直な感想です。それでも、難しい課題にチャレンジできていることに対して、やりがいや面白さも感じています。

黒木さん: 私は普通の授業とは違って、先生の板書内容をそのまま書き写すのではなく、一人ひとりが自分の考えを発表することが授業の中心になっている部分がとても新鮮です。

河尻君: 僕も「自分で考える時間が多い」という印象を受けました。国語も英語も与えられた

テーマについて話しあい、最終的に自分はどう思うかを文章にまとめる授業スタイルなので、しっかりと自分の意見を持つことの大切さを実感しています。

横山さん: 同じテーマでも、人によっていろいろな捉え方があることに気づくことができました。いろいろな視点から考えた意見を知ることができるのでとても楽しいです。

黒木さん: それから、それぞれが自分の意見を出しあうことで教室に活気があることもPre IBDPの授業の特徴だと思います。

澤村君: Pre IBDPに参加している生徒は、本当に全員が真剣に、積極的に取り組んでいると感じます。

河尻君: 確かに普段の授業とは教室の雰囲気違います。特に僕は国語の時間にそうした印象を強く感じていて、国語の授業を受けているという実感が湧いてこないこともあります。

横山さん: それはきっと、Pre IBDPでは先生も生徒も一緒になって意見を出しあっているからだと思います。決まった結論や「正解」が存在しないところは、普段の授業との大きな違いです。

TIMES: ところで皆さんは、通常のカリキュラムに加えてPre IBDPの授業に参加しているわけですが、毎日がとても忙しいのですか?

澤村君: 部活に入っている生徒も多いし、確かにもう少し時間があればと思うこともあるけれど、自分の意志で始めたことなので全く苦にはなっていません。

河尻君: 僕はサッカー部ですが、Pre IBDPに参加することで練習時間が削られたとしても、与えられた時間に集中して取り組むことでカバーしていきたいです。

黒木さん: 私は通学の電車の中で宿題に取り組んだり、しっかりとプランを立てて、時間を効率よく使うように心がけています。

横山さん: 来年になってIBDPがスタートすれば、きっと今以上の努力が必要になると思うので、すべてを両立させていきたいと思っています。



▲ディスカッションを中心とした授業で、自ら考え発信する能力を磨きます

Pre IBDPの仲間は、互いに切磋琢磨し刺激しあえる“ライバル”

TIMES: 先生方の目には、Pre IBDPに参加している生徒たちの様子はどのように映っていますか?

アダム先生: 1週間に4日、通常の授業を終えた後に行われるクラスなので、ついていくことができず諦めてしまう生徒たちがでてくることも想像していましたが、全員が非常に高い意欲を持って授業に臨んでいます。「自分を高めたい!」というファイティングスピリットが伝わってきて、教員として幸せを感じています。

ティム先生: 今はまだIBDPの学習スタイルを理解するための準備段階ですが、全員がIBDPの学びに興味を持ち、前向きに、熱心にクラスに参加している姿勢には満足しています。非常にハイレベルな学習に取り組んでいるのですから、きっと得られる物も大きいはずですよ。

河尻君: 授業の内容はもちろんですが、僕が気に入っているのは「edmode(エドモード)」という教育用のSNSを使って家庭学習用の課題が出されること。毎日楽しみにアクセスしています。Pre IBDPを通して自分がどのように成長できるのか、とてもワクワクしています。

ティム先生: 「edmode」のメリットは、教室から離れた所に学びの場や機会を用意できることです。「双方向性」はIBDPの学習スタイルのキーワードでもありますし、授業に対する

感想や学習状況をリアルタイムに把握することで、今後の授業にフィードバックすることもできます。

TIMES: 生徒同士の関係はどうか?

横山さん: 同じPre IBDPの仲間なのですが、やはりお互いをライバルだと考えている部分もあります。だからこそ皆が一ひとつの課題に対して真剣に取り組むようになるし、毎回の授業が充実しているだと思います。

アダム先生: それはとても大切なことで、実際にPre IBDPのメンバー全員がIBDPに参加できるわけではなく、クラスの仲間は自分にとって競争相手でもあります。お互いに切磋琢磨し高め合う、いい意味でのライバル関係を築いてほしいと思います。

TIMES: 最後にこれからのPre IBDPの授業への抱負を聞かせてください。

黒木さん: 私はまだ少し英語力が足りないと感じているので、もっと単語量を増やして、授業の内容を完璧に理解できるようにしたいです。

澤村君: 僕は数学が苦手なので、2年生までに皆に追いつけるようにしたいです。目標がはっきりしているから、きっと頑張れると思います。

河尻君: Pre IBDPの学習スタイルに慣れることはもちろん、IBDPに挑戦するまでに、数学や音楽のような苦手科目を克服したいと思っています。

横山さん: 全体にバランスよく学力を高めて、IBDPではさらに高い目標に向かって自分を磨いていきたいと思います。☑



▲「IBDPに参加するための準備として、1年間の授業を有効に活用してほしい」とティム・デイルー先生



▲「生徒たちには目標を達成しようとする強い意欲を持ち続けてほしい」とアダム・クラウス先生

Pre IBDPとは?

今年度から高校1年生の希望者を対象に行われている名古屋国際高等学校のオリジナルプログラム。「海外で勉強し就職したい」、「たくさんの国の人とかわるような仕事がしたい」など、目的意識の高い生徒28名が現在受講しています。プログラムは英語と国語の2教科で、ライティングやスピーキングといった表現力を重視する授業を通して、世界水準の新しい学びを先取りしています。なかでも、週に4時間、放課後に行われる英語の授業では、いわゆる「英作文」に取り組むのではなく、英文を読み、英語で考え発信する能力を鍛えながら、自ら探究する学びの基礎を築いています。

